

総務大臣賞

湯治と農山村の資源を活かした地域再生の取組み
～現代湯治 鳴子スタイル～

宮城県

鳴子ツーリズム研究会



田んぼ湯治では、湯治をしながら1年間かけて無農薬の米作りを行っている。



田仕事の後には、のんびりと温泉で体と心を癒やす。



第2回全国グリーン・ツーリズムネットワークみやぎ鳴子大会にて企画などを運営した。

事例の概要

○観光入込客の減少や過疎化、高齢化が進む中で、様々な分野に携わる住民が連携して学び合い、地域資源を活かした交流を通して地域の活性化を目指すため、平成16年に「鳴子ツーリズム研究会」を民間主導で立ち上げた。

○「農」「食」「湯治」をつなぎ1年かけて無農薬の米づくりを行う「田んぼ湯治」、鳴子の生活・文化・暮らしを再発見する「スローライフ週間in鳴子」などを実施し、新しい旅のカタチ「鳴子

スタイル」を発信、実践している。

○行政とも連携して、研究会会員が構造改革特区「鳴子温泉郷ツーリズム特区」の規制緩和を活用し、宮城県内初の「どぶろく」を提供する農家レストラン「土風里（どっぷり）」がオープンし、また遊休地を活用した湯治と市民農園をリンクした「湯治クラインガルテン」もスタートしている。

● 評価のポイント

大崎市鳴子地域は、温泉などの観光資源に恵まれた地域であるが、ここ10年ほど観光入込客も減っており、旅館業等の廃業など様々な問題が起きてきた。このような状況の中で各分野が危機感を持ち始め、できることから行動を起こそうと、様々な業種が同じ視点に立ち、連携し学び合い実践しようとして平成16年4月に民間主導で「鳴子ツーリズム研究会」を設立し、活動を開始した。

主な事業は、「農」「食」「湯治」をつなげる「田んぼ湯治」の実施、集落を取材編集した交流体験パンフレット「鳴子暮らしの達人」の作成、鳴子の生活・文化を再発見しようとする冬の鳴子の資源・暮らしを活用した「スローライフ週間in鳴子2005冬編～湯っくり 湯ったり 湯たかに～」の開催である。

田んぼ湯治では、種まきから収穫祭まで計10回無農薬の米づくりを行い、農業交流をしながら地元の食、温泉を楽しめるもので、また、地元大学

生の授業の受入れなども行っており、年間約300名が交流を重ねている。

「スローライフ週間in鳴子2005冬編～湯っくり 湯ったり 湯たかに～」では、手暇を掛けて丁寧につくられてきたその土地の生活・文化・暮らしを再発見することを目的にし、参加者は400名を越し、この取組みで地元住民も足下を見つめ直す機会となり、地元の資源の価値や大切さを見直すきっかけとなっている。

地域住民が自主的に地域資源の見直しや活用を行う中で、観光・温泉・商工・農業等の各分野が一体となって鳴子の魅力づくりに取り組み始め、構造改革特区「鳴子温泉郷ツーリズム特区」の規制緩和を住民が積極的に活用するなど、行政と連携しながら協働で活動を行っており、鳴子の特性を活かした、先進性・独自性のある取組みとして評価された。

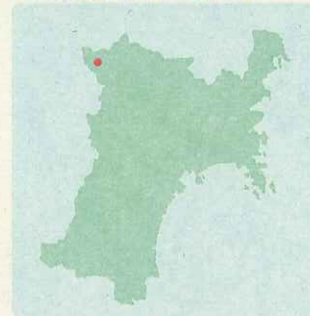


「スローライフ週間in鳴子～冬の森をかんじきで歩こう～」冬芽や足跡を探しながら東北大学演習林を歩く。



「世界トライク選手権」温泉場から農村をゆっくり散策。

宮城県 大崎市(旧鳴子町)



国勢調査人口

(単位:人)

	昭和35年	昭和45年	平成2年	平成7年	平成12年
大崎市	138,968	126,057	135,208	138,068	139,313
旧鳴子町	15,341	13,312	10,791	10,197	9,289

人口増減率

(単位:%) 高齢者・若年者比率(H12)

	H12/S35	H12/S45	H7/H2	H12/H7	高齢者比率	大崎市	20.6%
大崎市	0.2	10.5	2.1	0.9	旧鳴子町	29.4%	
旧鳴子町	△39.4	△30.2	△5.5	△8.9	大崎市	18.5%	
					旧鳴子町	12.9%	

交通のご案内

自動車 東北自動車道古川ICから
国道47号経由40分

鉄道

JR東北新幹線古川駅から陸羽東線でJR鳴子温泉駅まで40分
仙台空港から仙台駅まで(540分、
仙台駅から鳴子温泉駅までバス1時間10分)

団体連絡先

名称 鳴子ツーリズム研究会

所在地

〒999-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字湯野911山崎
ところの湯みやま内 鳴子ツーリズム研究会事務局
TEL:0229-84-7641
http://www.narukostyle.com/